

コロナ禍におけるピア・サポート 1回生の支援を中心に 〈確かな学力・豊かな個性を伸ばすために〉



岡本直輝（立命館大学スポーツ健康科学部）



立命館大学
スポーツ健康科学部

本日報告する科目：基礎演習（1回生配当科目）

基礎演習Ⅰ・Ⅱ：毎週水曜日（1時限目、2時限目） 1クラス25名程度 9クラス

・大学での学び方（シラバス） 下線部分は学部のオリジナル

立命館憲章を学ぶ、立命館大学の歴史、立命館大学の未来を考える、レジュメ・レポートの書き方、発表や討論の仕方、文献や書籍の探し方、ビブリバトル、ディベート、ポスター作製、平和学習、キャリアガイダンス、SDGs（CSR）活動、スポーツを見る・支える・知る等

・専門科目への導入

・コミュニティの形成

（その他） かなり重要

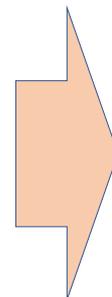
・大学からの連絡・確認（教学部、学生部等からのもの）

・学友会の支援&帰属意識の高揚

・課外活動参加への誘導

・学習の相談&生活管理

・生活が乱れ始めている学生の面談



本日紹介する事例

ピア・サポート

オリター &

アカデミックアドバイザー



基礎演習におけるピア・サポーターの役割

①オリター: 全学学友会 自治組織に位置づく

1960年頃から動き出す

1991年に基礎演習の支援が始まる

②アカデミックアドバイザー(AA)

学部自治会 組織に位置づく

スポーツ健康科学部設置時(10年前から)



<スポーツ健康科学部 基礎演習のピア・サポートの役割>

○オリター: 大学生活全般の支援、仲間づくり、授業支援

○AA: 学習支援(授業外での指導を含む<PC、レジュメ等>)、授業支援

(授業外では、学習の相談や生活の悩み相談なども多い)

授業支援の具体例(例年)

1時限目<AA担当>シラバス

- SDGs<健康・スポーツ版>について考える
(教員から内容の説明)
- グループでSDGsの取り組みの検討
(AAがグループの支援<情報検索など>)
- 進捗報告
(教員 & AAが支援<パワーポイントの使い方>)
- 次回の課題設定
(AAが各グループにアドバイス)
- グループの独自活動<授業外>
[キャンパス健康マップ作製]
(AAが教員と連携し準備を手伝う 等)

2限目<オリター担当>

<仲間と共に歌詞を創造する>
仲間づくり企画(男女のグループで実施)

【アタックNO1の歌詞の空白箇所を創造する】

苦しくたって、悲しくたって

コートの中では平気なの

ボールがうなると、胸がはずむわ～

レシーブ トス アタック

WANTU～ WANTU～ アタック

「 ? 」(歌わない 語り)

涙も 汗も 若いファイトで

.....

正解: だけど涙が出ちゃう 女の子だもん

コロナ感染対策として何が起こった？

- 入学式中止(卒業式中止)
- 学部窓口業務中止
- アナログ情報・申請・手続関連全て中止
- 1回生(1年生)が、入学しても教員、仲間、職員の顔が見えないで受講する。

[学部内での議論]

1. 1回生を優先してサポート<3月31日に履修ガイダンスを実施>基礎演習授業担当者が責任を持つ
2. 学部学生への情報発信(3回生、4回生はゼミ教員)
3. 教員の授業準備(対面⇒WEB)



校舎に入れば、コロナ
疲れる～

1回生支援会議(ピア・サポーターと共に)

【3月中旬】

＜ピア・サポーター会議＞

①4月期、②5月期、③6～7月期の約3期の支援内容を教員&ピアサポーターで作成することの協力依頼(プログラムの変更)

基礎演習担当者 ⇒(依頼) ピア・サポーター

＜オリター、アカデミックサポーター(AA)に下記の点について

緊急協力要請＞

○オリター、AAの役割を半分程度融合させる

○オリターは、WEB(ZOOM)を用いた仲間づくりの企画提案

○AAは、PCの使い方説明、教学学習支援システム(manaba+R)の使い方説明&履修相談会の機会づくりをWEB&携帯で行う

新入生ガイダンスの実施

【3月31日】

○基礎演習担当教員の紹介

○ピア・サポーターの紹介

○クラス・グループラインの作成(とにかく第一優先)

○大学メールアドレスの配布と使用説明

(ネット環境が不十分な学生への対応)

○manaba+R(学習支援システム)の説明

○顔写真撮影&クラス名簿作成

大学の感染対策に関する明確な方針を出し切れていない状態での実施(厳しい意見もあったが..)

ピア・サポートの実施

○4月期(教員 & ピア・サポーターと協同) 学習環境準備期

- ・WEB(ZOOM)で顔合わせ<仲間づくり>
- ・manaba+Rの使用説明
- ・簡単な授業感想文の提出⇒使用方法を理解していない学生のピックアップ & 支援
- ・ワード、エクセルの使い方の説明
- ・ネット環境が劣る学生のチェック & サポート

○5月期 仲間づくり期

WEB(ZOOM)でグループワークを主体(ビブリオバトル等)

<この時期から1回生はクラスの仲間と会う機会を作っていた。下宿、大阪、京都等で>

○6月～7月期 授業本格実施

- ・WEB(ZOOM)で課題授業<全クラス統一プログラム>
- ・課外活動が少しずつ開始される<サークル参加を誘導する>

manaba +R

緊急連絡

2020-12-07	◀◀ Ritsumeikan University will continue its current policy for the holding ...
2020-12-04	◀◀ 本学としての授業実施方針は現状を維持します～大阪府からの「医...
2020-11-12	◀◀ 感染防止対策へのご協力をお願い(継続) / Request for cooperation ...
2020-09-25	◀◀ 感染防止対策へのご協力をお願い / Request for cooperation with infect...
2020-09-18	◀◀ 各種ガイドライン、マニュアル等の更新と「マスク着用」に関する...
2020-07-13	◀◀ 【重要】秋学期の授業について (授業形態、定期試験等) / Classes I...

新着情報

◀◀ コースニュース「第11回目講義の学習の手引きと第10回目講義の感想質問」...	2020-12-06 34094:日本の近現代と
📄 課題「日本の近現代と立命館レポート試験」が出題されました。	2020-12-05 34094:日本の近現代と
📄 課題「スポ_学びと成長調査[J] (2020卒業予定者)」が出題されました。	2020-12-04 32676:専門演習IV(VL)
📄 課題「【12/2 課題】SDGs進捗報告」が出題されました。	2020-12-02 32627:基礎演習II(D)



2020年特別支援事業 1回生クラブ・サークル交流会 新入生の参加受付開始！



2020年特別支援事業 サークルデータベース登録受付開始

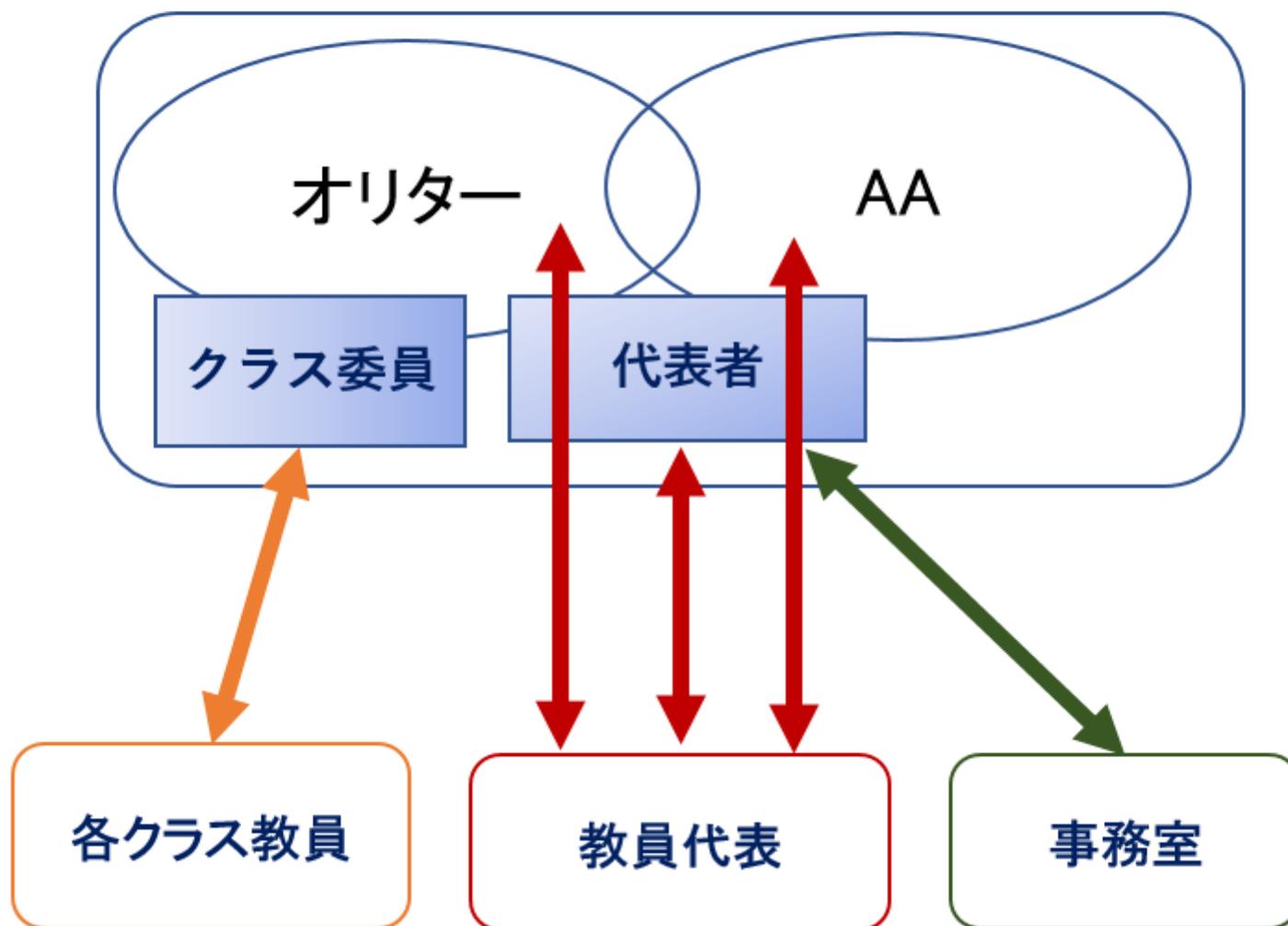


2020年特別支援事業 団体企画 出展団体募集のお知らせ



1回生クラブ・サークル交流会 団体募集ページ

ピアサポーターと教職員との会議



クラスのオリター & AAの5月〈仲間づくり期〉の取り組み事例(下宿生悩み対策)

〈ピア・サポーター ⇄ クラスラインで発信〉

○「お天気信号」の発信(1回生からの発信)

晴れ:気分がいい

曇り:気持ちがどんより

雨 :とにかく誰か〜と話したい



○「南草津駅前の西友スーパーで18時から買い物します〜」 全員からの発信

下宿で籠って気持ちが沈んでいるなら、買い物だけでもご一緒しませんか？

○「16時から、びわこ文化公園でランニングします〜」 オリターからの発信

運動不足の人は、ご一緒にどう？ トレーニング場所の紹介を兼ねて

かなり成果はあった

「〇〇先輩は、面白いわ〜」、「〇〇君と初めて会った！」等の反応(ライン)

ピア・サポートの成果と課題(1回生)

成果

- 1回生が9月に元気に戻ってきた
- グループワークが例年と同様にできる
- 課外活動への参加率は、落ちていない(私のクラスは100%加入)
- WEBでレポート提出が多いことから、文章力は例年よりもある
- 上級生へ感謝している
- 精神的につらい思いをしていた学生がいたが、現在はほとんどが元気になっている。

課題

- 上級生を頼りすぎる
- 上級生の大変さを見ているため、来年度の担当をしてくれるか多少心配(体育会学生の参加希望がある)。
- 大学生になったという実感が持てていない。
- サポートを嫌がる学生が、多少存在する
- 不本意入学の学生への支援が難しい(大学受験の偏差値評価から抜け出していない学生が多少いる)

ピア・サポートの成果と課題(ピア・サポーター自身)

成果 (成長)

○予定していた支援プログラムの変更に対応できた

○1回生ばかりでなく、教員の支援にも関わっており、高い信頼を得ている

○帰属意識が、例年よりも高まっている

○WEB環境を最大限利用したコミュニケーションづくり・グループワークを実施(様々な企画・ゲームなど)

課題 (教学の問題点)

○WEB環境を用いた仲間づくりの限界を感じている<教学課題>

○多くの教員が、WEB環境を十分に使えない1回生の現状を理解しておらず、無理な学習課題を提示することに不満を持つ<1回生の学習意欲を低下させる要因>。

2021

立命館大学
スポーツ健康科学部

Sport and Health Science

ここにしかない学びがスポーツ健康科学の
未来を創る



まとめ

＜ピア・サポートに関わる学生と教員が共に＞

○高等学校と大学の学びの違いを伝える(教える)ことに、共に悩んだ。

○不本意入学者がいる中で、全ての1回生に帰属意識を持たせる取り組みを共に議論し実践したが難しい＜サークルが担ってくれている＞。

○ピア・サポートに関わる学生に、責任を持って、実践してもらうために、各クラスの運営ミーティングを必ず週1回は実施した。

○教員はピア・サポートに関わる学生の成長についても、共に考えている。